

令和 8 年度 第 1 回めいほう協議会議事録

日時 : 令和 8 年 5 月 27 日 (水) 14:00~15:10

場所 : 大教室

出席者: めいほう協議会委員 6 名、校長、副校長、教頭、グループリーダー 6 名

(1) 会長挨拶

- ・ご出席いただきありがとうございます。

(2) 校長挨拶

- ・本校は多部制定時制（午前部・午後部）である。4 年で卒業が基本だが部間併修制を利用し、3 年で卒業する生徒も多い。
- ・県内各地から様々な背景を持つ生徒が集まっている。生徒一人ひとりに合わせた指導には地域との連携が不可欠であり、本協議会はそのための重要な場である。
- ・学校目標について、4 年計画の折り返しの 2 年間にいった。今年度入学の 13 期生は午前部が定数を満たしたが、午後部は定員の約半分となっている。教員数に加配が付いており、複数担任制が実現し、少人数制による手厚い指導を行っている。
- ・在県外国人等特別募集枠が今年度より 14 名から 30 名に増加し、県立高校で最多となった。外国につながるのがある生徒に向けた支援として、あーすぷらざや ME-net との連携や校内での日本語授業や JLPT に向けた学習支援などを行っている。
- ・多様な背景を持つ生徒への支援として、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・スクールキャリアカウンセラーを配置している。ただし、外部機関との連携を図るコーディネート業務による教員の負担増が課題である。
- ・「わかった・できた・つながった」の目標のもと、生徒が幸せになれる人生の土台作りを目指す。
- ・様々なご意見をいただき、本校の教育活動にいかしていきたい。

(3) 委員挨拶

各委員より一言ずつご挨拶をいただいた。

(4) 令和 8 年度 学校評価報告書（目標設定）について

① 教育課程・学習指導

- ・目標は「わかった・できた・つながった」を実感できる授業の検討である。
- ・昨年度の生徒による評価は 90%を超えたが、今年度も 80%以上を目指す。
- ・思考をつなげるシンキングツールとして「ロイロノート」の導入を検討している。また、外国につながるのがある生徒等に有用な「音声教材」の導入も検討し、学校目標の達成を目指す。

② 生徒指導・支援

- ・基本方針は「かかわる・寄り添う・見守る」教育支援体制の推進である。
- ・今年度は、入学者増加に伴い生徒の状況も多様化している。特別指導の人数は前年比で減少しているが、細かい指導を要する生徒が多い。また、4 月段階から SNS 等を通じて人間関係ができている反

面、それに伴うトラブルもある。

- ・教育支援を目標としているが、その前に周囲を不安・不快にさせない規範意識を育むことが急務である。社会適応や犯罪リスク防止のためにも、教員が毅然とした「壁」となる必要がある。
- ・教員間で相談事例を共有し、支援スキルを向上させる。
- ・自転車の危険乗車への指導も強化する。
- ・部活動への関心は高いが継続が難しいため、動機付けを行い参加を促す。また、生徒会役員や生徒会フロンティアの主体的な取り組みを起点に、周囲の関心を高める。

③ 進路指導・支援

- ・「総合的な探究の時間」を通じて、自己理解を深め、将来像を具体的にイメージできるようにして進路実現を図っていききたい。
- ・外国につながるのある生徒に対しても、実態に合わせてキャリア教育の内容を改善していく。
- ・近年、入試方法が多様化しているため、情報収集が困難な家庭への進路支援を充実させる。

④ 地域との協働

- ・生徒会フロンティアだけでなく、一般生徒の地域行事への参加を促していききたい。
- ・在県外国人等特別募集枠の1年次生は午前部、午後部合わせて26名と、昨年度より倍増した。また、外国につながるのある生徒は現在110名程度在籍している。
- ・卒業後の進路実現にも外部機関の利用が有効である。
- ・5月29日にはあーすぷらざ見学会を実施予定であり、22名の参加を予定している。学習センターとしての機能や情報収集の機能、その他サポート機能についての理解を目的として実施する。
- ・6月1日には外国につながるのある生徒を対象とした進路ガイダンス、行政書士個別相談会の実施をする。進学、就職に関わる在留資格についての説明に加え、行政書士との個別相談も実施予定である。
- ・外部イベントの案内のみにとどまらず、参加を促す積極的な働きかけをしていきたい。

⑤ 学校管理

- ・在県外国人等特別募集枠の増加に伴い、教室不足が懸念される。増設は見込めないため、教室の振り分けを検討・工夫する必要がある。
- ・6～9月に太陽光パネル工事、11月から年明けにかけて体育館屋根補強工事を予定している。騒音等の迷惑がかかる場合もあることをご承知おきいただきたい。
- ・本校グラウンドが災害時活動拠点となることもあり、さらに防災意識を高めるための訓練を進めていく。
- ・成績処理や入試のマニュアル整備、研修を通じて不祥事防止に努める。

(5) 質疑応答

(委員) 勤務校でも国際教室が設置され、生徒に合わせた工夫の必要性を実感している。支援を行う中で、様々なプログラムを活用し、生徒の役に立った具体的な事例はあるか。

(職員) 入学前に日本語教室や支援とつながっている生徒が多い。その中で、入学時につながらない生徒を支援につなげていくことが重要である。卒業後のイメージを持ってない生徒も多いため、現実を認識させていく必要がある。

(職員) 小学校の国際理解教室では、どのような支援・指導を行っているか。

(委員) 児童への通訳や説明、別室での個別指導を行い、授業で困らないようフォローしている。

(委員) 近年、高校生が犯罪に関与するケースが増えているが、校内でそのような話はされているか。

(職員) 話は出ている。教員が話題として出してもいる。3～4月には警察署による「闇バイト」に関する講演を実施した。LHR等でも継続的に呼びかけて意識付けを図っていく。

(委員) 教育活動に協力できることは何かあるか。

(職員) 気になる場面があれば連絡してほしい。「地域に見守られている」という事実が生徒の規範意識を育む。

(委員) 昨年、横浜医療福祉センターの見学後にボランティアに参加してくれた生徒がいた。参加前後で印象が変わるなど、小さなつながりが社会参加の意識を育むと認識している。その継続性には課題があるが、サポート機能を整え、ボランティアでも生徒が達成感やモチベーションを得られる取り組みをしたい。

(委員) 就職に向けての個人の指導はどのように進めているか。

(職員) 4月にガイダンスを行い、志望分野の記入後に個人面談を実施した。個人の就職指南の冊子を作成し、スケジュールに沿って行動している。5月29日には保護者向け進路説明会も予定している。

(6) 次回開催について

次回は令和8年10月22日(木)に開催予定。